

[主催] 農林水産省
[共催] 東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター/アグリコケーン

FCP成果報告会

食の信頼確保のための成熟度評価事業

「格付け」で高め合う、食の信頼！

『食の信頼確保に向けた取組の見える化を通じた、ステークホルダーとの建設的な関係構築に向けて』

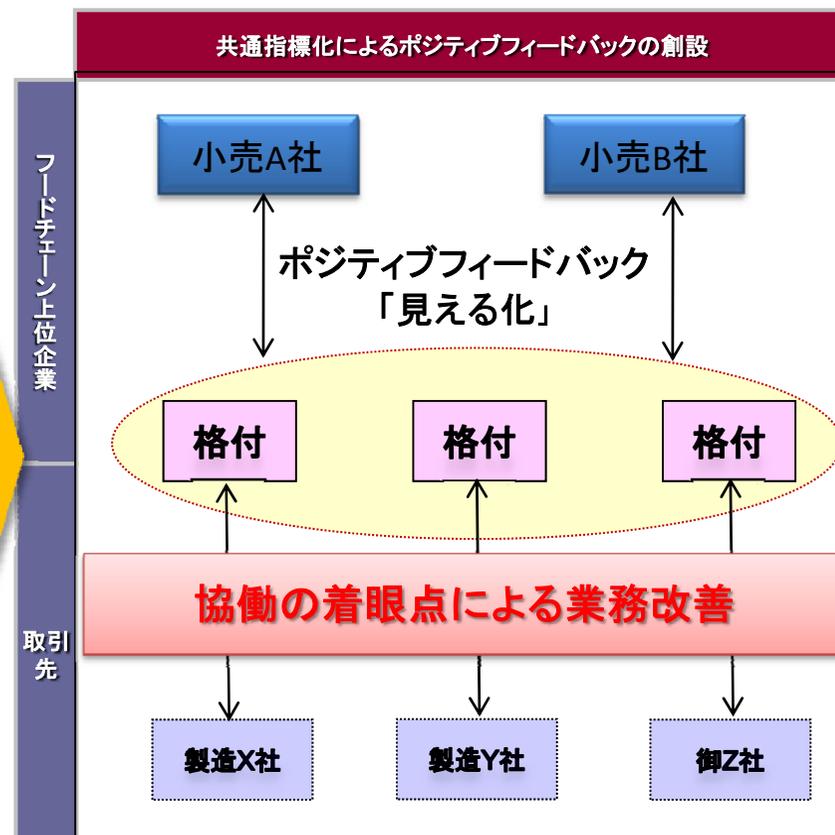
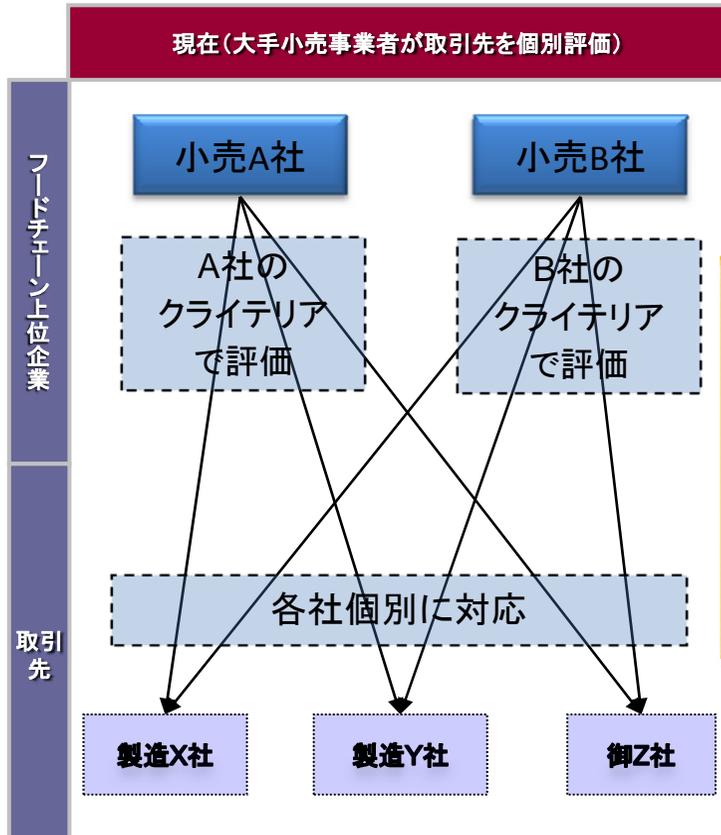


2010年2月24日

株式会社アイ・エス・レーティング

レーティング事業の目的

- 「協働の着眼点」を活用し、食品事業者等の業務を客観的に評価するとともに、その評価結果を食品事業者自らが活用し、販路拡大や資金調達等につなげる機会を創出する仕組みを検討。
- フードチェーン全体を意識し、格付けによる食の信頼確保に向けた取組の“見える化”を図り、ポジティブフィードバックを促すことでステークホルダー（取引先、消費者、金融機関等）との信頼構築を目指した実証実験。
- 食品事業者間で輻輳した相互の取引確認を、格付けを用いて解消することで、現状、食品事業者各社が負担している調査コスト・工数の効率化を図るなど、社会的なコスト削減を視野に検討。



レーティングの活用イメージ

- 第三者による客観評価(17段階)を用いて、経営者や現場責任者が自社のリスクマネジメント体制を点検する。
 - 自社・自組織のレベルがわかる ・他社・他組織とレベル比較ができる
- 格付けを事業者間の品質確認基準として利用すると、相互に品質の見える化が実現できる。
 - 購買/調達基準の共通尺度として利用 ・マッチングフェア等の採用基準に利用
- 格付けを公表して、ステークホルダーに食の信頼確保に向けた積極的な取組をアピールすると、販路拡大や資金調達等の機会が増える。
 - 消費者にアピールできる(BtoC) ・取引先にアピールできる(BtoB) ・金融機関にアピールできる



客観的な評価基準作成「格付基準審議委員会を設置」

■ 今般、農林水産省平成21年度フード・コミュニケーション・プロジェクト（FCP）実行可能性調査事業として（株）アイ・エス・レーティングが「食の信頼確保のための成熟度評価事業」を実施する中で、**食品事業者の評価方針、手法等を策定**するにあたり、関係企業・団体の方々からなる**格付基準審議委員会を設置**することと致しました。

■ この審議委員会では、格付基準の妥当性を各審議委員の方々のお立場を踏まえて審議頂き、ご意見を集約することで『**食の信頼確保に向けた取組の見える化を通じた、ステークホルダーとの建設的な関係構築**』に資する格付基準作りを目的にしております。なお、この格付けは中堅中小企業を主な対象として、被格付組織（企業・団体）からの依頼に基づき行うものであり、財務状況を除く業務品質に焦点を当てた評価となる見通しです。また、格付結果の公表については被格付組織の同意が前提となる仕組みを想定しております。

■ 審議委員会参加組織

➤ 格付基準審議委員

- 株式会社伊予銀行
- 株式会社岩手銀行
- 株式会社滋賀銀行
- 株式会社静岡銀行
- 信金中央金庫
- 生活協同組合連合会コープネット事業連合
- 株式会社高島屋
- 株式会社千葉銀行
- 株式会社電通
- 東京海上日動火災保険
- 株式会社株式会社
- 日清製粉グループ本社
- 株式会社日本経済新聞社
- 株式会社日本政策金融公庫
- 株式会社日本政策投資銀行
- 日本チェーンストア協会
- 株式会社百十四銀行
- 株式会社北洋銀行
- 株式会社みずほコーポレート銀行
- 三井物産株式会社
- 三菱商事株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 横浜商科大学地域産業研究所

➤ オブザーバー

- 農林水産省消費・安全局表示・規格課FCPチーム
- 社団法人全国清涼飲料工業会
- 社団法人日本ホテル協会
- FCP運営事務局

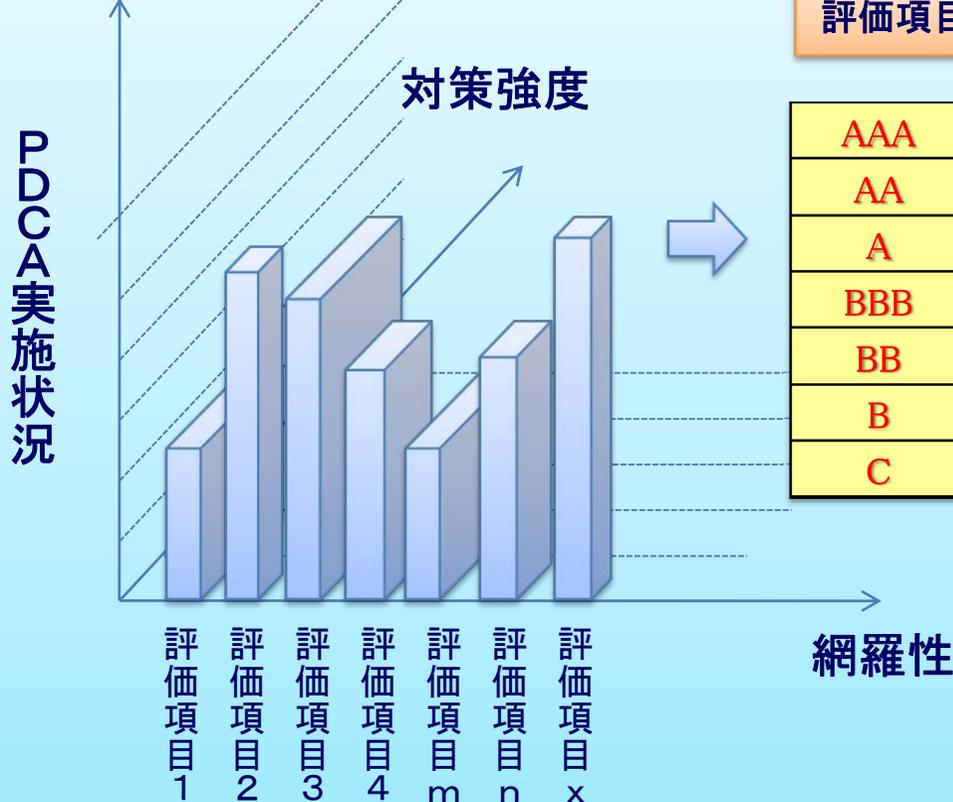


（敬称略）

レーティング手法

- 「協働の着眼点」の網羅状況と実施状況を確認するため、「小項目」単位にPDCAサイクルを確認する。
- 「協働の着眼点」の具体例により、取り組みの度合いを「対策強度」として確認する
- 確認に際しては、アンケート形式による事前確認を経て、現地審査により事実確認を行う

<評価イメージ>



評価項目毎に、(PDCA実施状況) × (対策強度) で評点化

AAA	ベストプラクティスに相当する取組が行われている。
AA	充実した取組が行われている。
A	比較的多くの取組が行われている。
BBB	標準的な取組が行われている。
BB	取組が十分とはいえない。
B	取組が不十分である。
C	(何の取組もない)

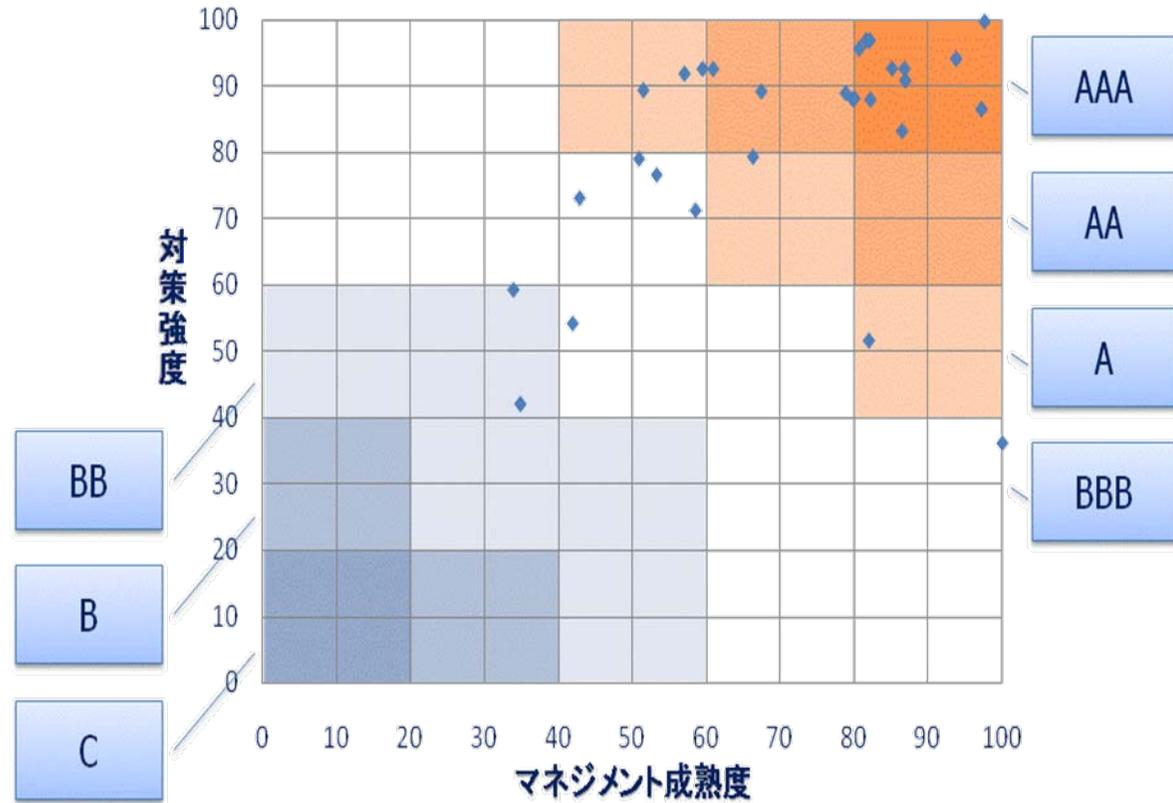


現地審査と格付実施

- 日本全国の食品事業者**9社**の本格的な格付け(現地審査を加味)を実施
 - 現地審査方法 : インタビュー形式および工場審査による調査票内容の審査
- **33社**の簡易格付け(アンケート調査結果による評価)を実施



マネジメント成熟度—対策強度



格付事例

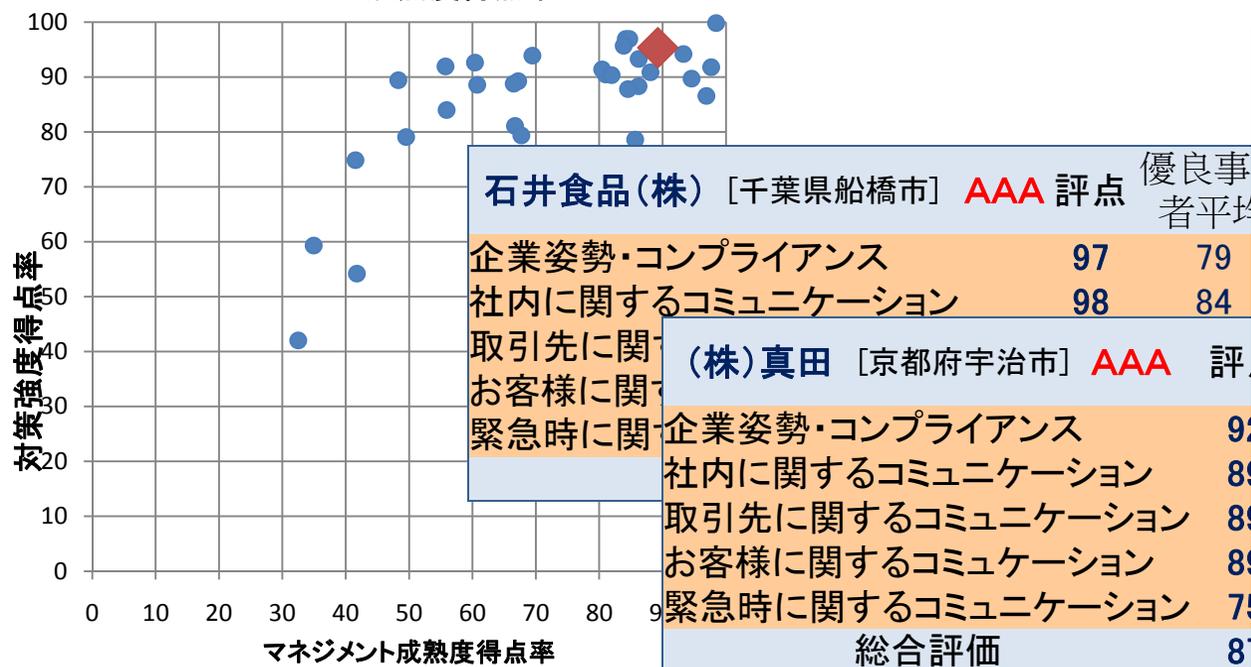
■ 石井食品株式会社(千葉県船橋市) AAA

お客様や取引先など**第三者の視点から検証**する仕組みを整備し、お客様の声を製品作りや経営に反映している。製品毎の品質管理の状況を、**二次元データコードを使用した「品質保証番号」**によってお客様が確認できる仕組みを有するなど、先進的な対策を進めており、食の信頼確保に向け、優れた取り組みを行っている。

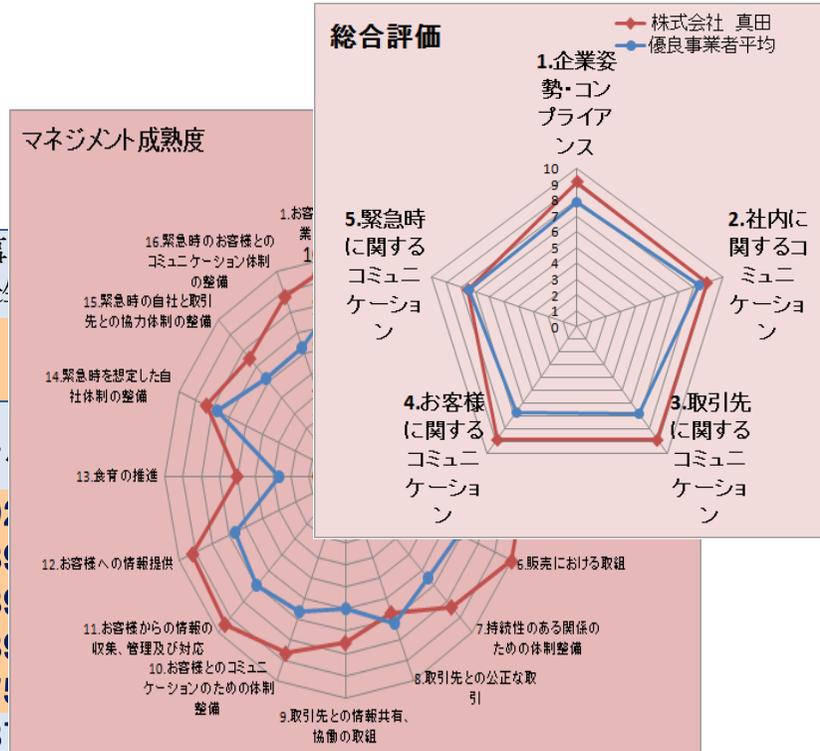
■ 株式会社真田(京都府宇治市) AAA

取引先工場の点検結果のデータベースを策定し、**時系列的・多面的な評価と改善策の提案**を行っている。**地域の農家や取引先、大学等との協働**による製品開発を推進し、安心してもらえる製品作りに取り組んでいる。食のありがたさを伝える自作の歌をつくり、地域の幼稚園児との食への関心を高める取り組みを通じ、**食育に貢献**している

マネジメント成熟度得点率



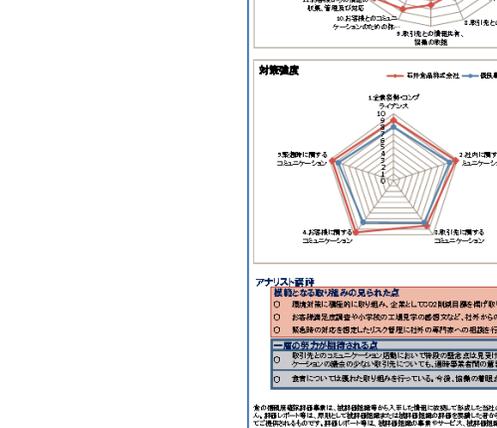
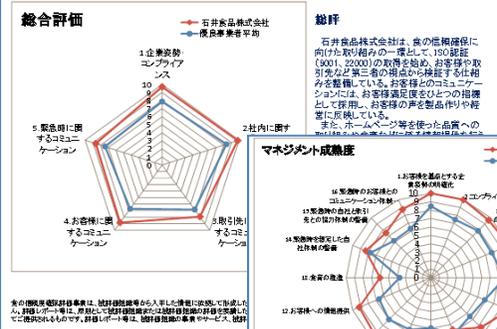
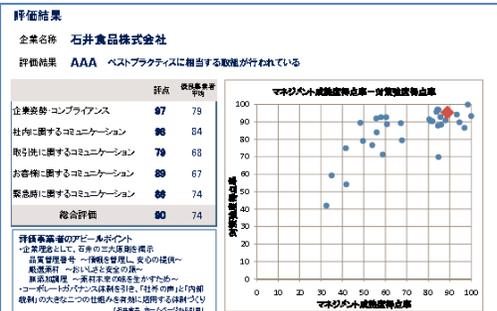
総合評価



格付結果

【評価レポート】

【格付証明書】



マネジメント実行

経営理念の明確化の見える化
 ○ 経営理念の明確化に取り組む、企業としての目標を掲げている
 ○ お客様満足度や小学校の工場見学の手帳など、社外からの声も収集し活用している
 ○ 緊急時の対応を想定したリスク管理に対する体制づくりの一環として取り組んでいる

一層の努力が期待される
 ○ 取引先とのコミュニケーションの取組に、多くの取引先があることから、取引先やコミュニケーションの取組の強化についても、継続的な取組の推進を期待する
 ○ 経営理念の見える化については、今後も、経営者の取組の推進により強化に取り組むことが期待される

Gold Food Communicator

食の信頼確保に関する業務格付 証明書

石井食品株式会社 (千葉)

FC2010022401

Best Practicesに相当する取組

企業名	石井食品 株式会社
格付履歴	食の信頼確保に関する業務格付
格付基準	フード・コミュニケーション・プロジェクト「食の信頼確保」基準並び
格付スコープ	パン(バゲット、エートボール)の製造
格付対象	八千代工場
格付の観点	マネジメントの成熟度および管理
格付符号	AAA (トリプルA)
格付の方向性	肯定的
交付日	2010年2月14日
有効期限	2011年2月13日

平成21年度フード・コミュニケーション・プロジェクト
実行可能性調査委託事業「食の信頼確保のための成熟度評価事業」

実行責任者 三好 雄
(株式会社アイ・エス・レーティング)

Gold Food Communicator

食の信頼確保に関する業務格付 証明書

株式会社 真田 (京都府宇治市)

FC2010022402

Best Practicesに相当する取組が行われている

企業名	株式会社 真田
格付履歴	食の信頼確保に関する業務格付
格付基準	フード・コミュニケーション・プロジェクト (FCP) 「食の信頼確保」基準並び
格付スコープ	惣菜製造販売
格付対象	本社および自社工場 (京都府宇治市)
格付の観点	マネジメントの成熟度および管理の水準
格付符号	AAA (トリプルA)
格付の方向性	肯定的
交付日	2010年2月14日
有効期限	2011年2月13日

平成21年度フード・コミュニケーション・プロジェクト (FCP)
実行可能性調査委託事業「食の信頼確保のための成熟度評価事業」

実行責任者 三好 雄
(株式会社アイ・エス・レーティング 格付委員長)

格付事例紹介「株式会社真田様(京都府宇治市)」

【品質管理】カイゼンシステム・情報共有データベース



「もっと良くしよう!」提案カード

「カイゼン」とは今日よりもっとよくなる行動。今に満足せず進歩するためにカイゼンしましょう。

(カイゼンの心)

- 1) 固定観念は全て捨てること
- 2) すぐにやる。言い訳はしないこと
- 3) 全て解決するのではなく、知恵で解決すること
- 4) 「なぜ」を5回、真因も突き止めること
- 5) 「カイゼン」に誇りを持ち、今が最後と思うこと

(カイゼンカード)

■仕事のやり方や仕組み ■仕事の種類と必要性 ■体制関係 ■業務関係 ■技術/知識関係 ■その他

キーワード: ムダの撲滅、処理時間短縮、価値向上、能力向上から利益貢献しましょう!

提案日: 2009年 4月 23日
 テーマ: お茶だし

提案者名: 野村 隆行

現状説明と理由: お客様が来たときに自動的にお茶が出てくる。一般的に思いますが、宇治の名産品といえば「お茶」があります。お客様に色んなお茶や茶葉感のある飲み物を差し上げたくなる気持ちは、お客様が当社に抱くイメージを上げるのではないのでしょうか? 来社後の早い段階で第一印象を与えるからもしませんか、高級感も高いと思います。

具体的な提案説明と効果予測(わらわらい): あらかじめメニューを作成し、お客様に好みのものを選んで頂く。メニュー内容は、お茶、本番茶、だし茶、ソフトドリンク、目玉料理についてはそれぞれに「山崎屋の物語」や「山崎屋のPR」する。なお、お客様ごとの嗜好目標をあまり意識がなすので、それ自体が賞をなす。百すことでの味に、感動して企業イメージが上がる行為にあると考えました。文書を作成していただいていたので、商談開始になることにも思いにあ

提案採用判断 (YES NO)

場所長印 生産本部長印 専務印 社長印

<商品基本台帳>

商品ID: 1100
 品名: ばら茶
 入数: 1000g
 単位: 1000g

商品属性:
 種類: ばら茶
 状態: 乾燥
 色: 緑
 香り: 茶葉

生産者: 山崎屋
 産地: 京都府宇治市

商品規格:
 規格名: ばら茶
 規格内容: ばら茶

商品管理:
 管理種別: 在庫管理
 管理単位: 1000g

商品情報:
 商品説明: ばら茶は、茶葉をばら茶として販売する。品質は、茶葉の品質に依存する。品質管理は、茶葉の品質を確保する。品質管理は、茶葉の品質を確保する。



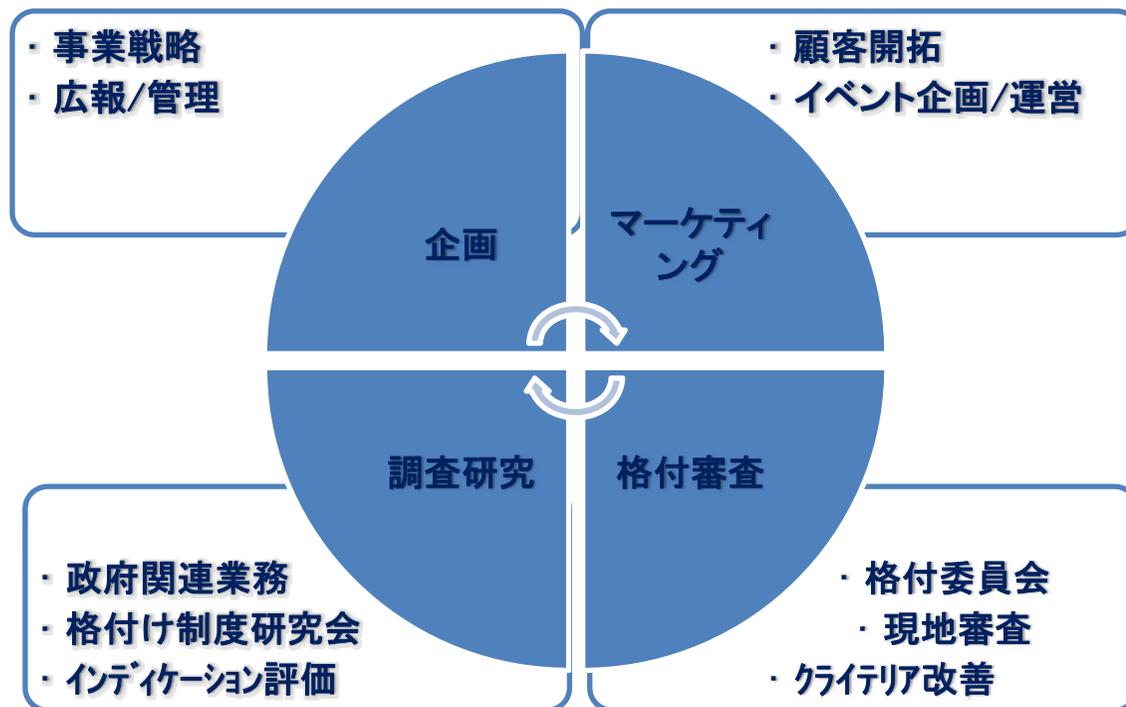
【食育・商品開発等】大学連携(関西MBAフォーラム)、地域活動・社会貢献等



実証実験の成果

- 格付基準の妥当性について、**審議委員からの幅広い意見を集約**、現地審査による実態を踏まえた格付実施を通じ、中堅中小の食品製造事業者を主な対象とした**客観性のある格付基準が完成**。
 - 食品事業者の業務品質に関する格付けは、本邦初であるばかりか世界にも類を見ない取組であり、食の信頼確保に向けた**“見える化”**手法としての一定の成果。
 - 食品事業者を対象にしたアンケート調査等により、第三者評価としての**格付けへの期待**に加え、**格付審査の費用負担**に関する要望を把握。
 - 課題としては、食品製造事業者以外の業種に関する格付け基準作りなどが挙げられる。
-
- 今後期待される格付けの利用例として、①**商談会**の場を活用して、新規販路を効果的に開拓、②**メインバンク**とかけあい、販路拡大に伴う施設整備を実現③県からの**表彰**や業務格付けの結果を**プロモーション**にも活用などを想定。
 - また、**メディア**を通じた消費者への発信などにより、FCP及び格付けを運動論として盛り上げ、**社会基盤**として定着させる方策が期待される。

「格付け」で高め合う、食の信頼！



お問合せ先



株式会社アイ・エス・レーティング

TEL: 03-6430-0470 FAX: 03-6430-0473

E-mail: ISR@israting.com <http://www.israting.com/>

なお、当資料に記載の内容は予告なく変更することが御座いますので、予めご了承願います。